



どんなときに
どんな人が使うの？



「まだ元気だけど、杖を使ってもいいのかな？」
「転びそうな親に、何を勧めたらいいの？」



福祉用具は「介護が必要な人」だけでなく、
日常生活で不便や不安を感じる
すべての人が使うことができます。



誰でも使える
「便利グッズ」

歩行が不安定・ふらつく

歩いている時にふらつく、
転倒が心配な場合は、
杖・シルバーカーが
役立ちます。

**けがなどで
歩きにくい**

足をねんざした時などは
松葉杖が有効です。

**長い距離を
歩くのがつらい**

疲れやすい場合は
車いすを使うと
移動が楽になります。

**起き上がり・
立ち上がりが大変**

布団からの動作が
しんどい時は
ベッドが助けになります。

**トイレまで
間に合わない**

パッドや紙パンツが
安心につながります。

**段差や階段の
上り下りが不安**

手すりや踏み台で
安全に移動できます。

**夜の移動が
不安**

足元灯があると安心です。

**スプーンが
持ちにくい**

柄が太くて
握りやすいスプーンが
食事をしやすくします。



福祉用具とは

皆さんにとって手放せない便利グッズ、身近な生活用具は何ですか？スマートフォンなどの通信機器と答える方は多いでしょうし、眼鏡やコンタクトレンズがなくては日常生活が成り立たないという方もいるのではないのでしょうか。今回取り上げる福祉用具も、日常生活を成り立たせるのに欠かせないものです。福祉用具と聞くと、車いすや杖、手すりなどを思い浮かべることが多いかもしれませんが、福祉用具とは、加齢等で心身の機能等が低下した場合に、自立した日常生活を送るために用いる用具や機器の総称です。

ユニバーサルデザインが社会に浸透していく中で、必要とする人が利用しやすいように、福祉用具がより身近になるように、使うことが楽しくなるようにと、デザインや機能も進化をしています。福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律（福祉用具法1993年公布）により、産業界と福祉業界が連携し福祉用具の開発普及を進めていくことになりました。最近では2025年大阪・関西万博で介護ロボットや福祉用具を扱った企業などが出展し、次世代の福祉用具が紹介されました。新たな技術開発や、多様なアイデアを取り入れ、福祉用具は進化をしています。

